Vol.18　Xm7(♭5) コードの構造を確認してみる　～その 2～

では、vol.18、始めていきましょう。

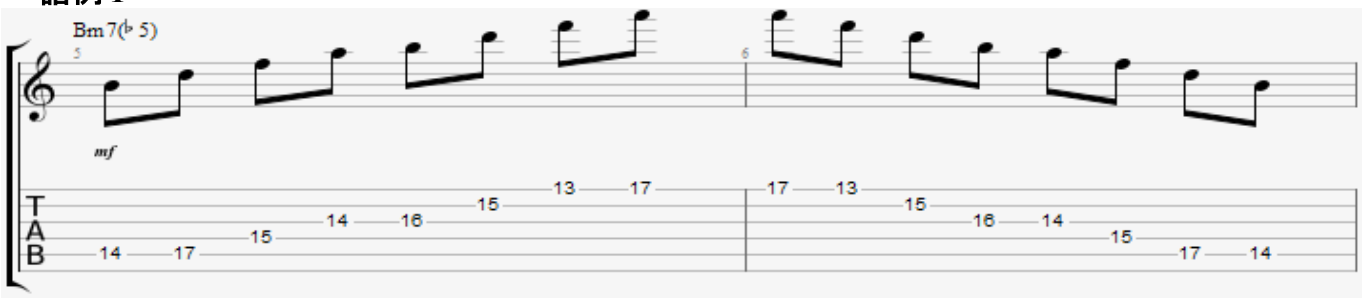
引き続き、Xm7(♭5)のアルペジオについてやっていきます。

今回は 5 弦ルートのポジションですね。ルート(トニック)は同じく B 音に設定し、Bm7(♭5)をベースに見ていきましょう。

ルートの位置は、5 弦 2 フレットの B 音の場合、ヘッド側へ進むポジションが取れないので、オクターブ上げた 5 弦 14 フレットの B 音に設定します。

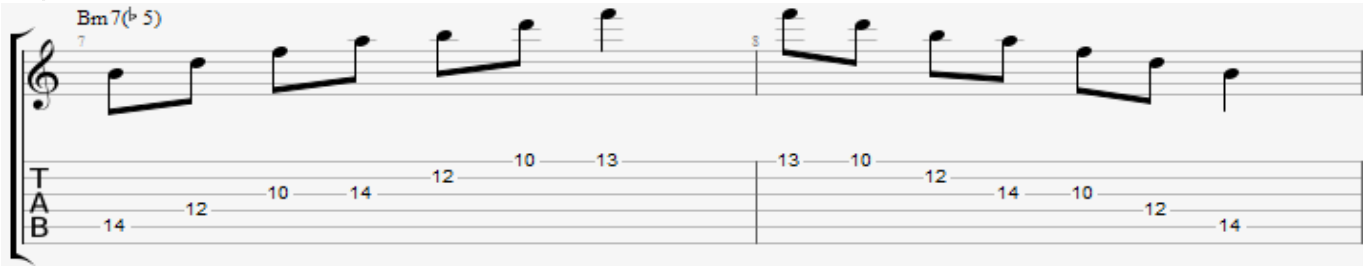
それでは、譜例は以下になります。

譜例 1



ボディ側に進む基本パターンですね。構造的に ♭ 5 以外は Xm7 と同じなので、コードネームから連想されるイメージよりは弾きやすいはずです。

譜例 2



こちらはヘッド側に見るポジションです。最近やっていたアルペジオの全てのテキストに言える事ですが、別途配布している【教科書】の vol.45 の内容と照らし合わせてみると、より理解が進むでしょう。

と、言う事で、vol.11 から続いてきた、コードトーン・アルペジオの基本も今回で終わりです。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

これで、標準的なダイアトニックコードのアルペジオは一応全て弾けるので、任意のキーで 1 度〜7 度までのアルペジオを順に繋げて弾いてみる、と言う練習もしてみましょう。(教科書 vol.45 でやっている様な練習です)

後は、過去に覚えたスケールポジションと組み合わせて、フレーズにコードトーン的な要素を加えてみる、など、これらのアルペジオからは、色々と音楽的な発展をさせる事が出来ます。

この手のアルペジオパターンは、普通にギターを弾いていたら、体系的に覚える機会があまりない要素なので、ここでマスターしておけば、今後、何をするにしても、様々な面で楽になって来るでしょう。

では、また次回。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved